

子どもの思いに  
着目

## 崩す山を作ろう

出雲市立東幼稚園（島根県出雲市）

[3歳]

- 幼児の姿** 戸外遊びを好まないA児たちは、保育者の誘いにより砂場遊びをする。しかし、当初は保育者や友達の様子の様子を見ている。大きな山を一緒に作ろうという言葉や山になる様子に誘われて、A児たちもシャベルを持って入ってくる。



幼児の様子

\* 保育者の受け止め ★ 援助

### 大きな山、「崩しちゃえ!」「やめてよー!」

- トンネルを掘り始める。山が大きいために、なかなかトンネルが掘れない。
- トンネルを掘っている途中で、A児が大きな山を足で踏みつけながら崩し始める。両手も使って全身で山を崩し始める。
- A児を真似て、B児、C児たちも笑顔で、とても楽しそうな様子で崩し始める。
- トンネルを作りたいと思っていた子どもは、「もうー! やめてよ!」と怒りだす。

★突然崩し始めるA児たちに驚いた保育者は、トンネル作りをしていた子どもたちの気持ちを代弁し、崩したA児たちに気持ちを伝えるように「せっかく作ったのにねえ」「残念だね」と話す。

\*以前、砂団子や型ぬきしたケーキを次々と壊して遊ぶ子どもの姿を思い出す。山を崩したA児たちが笑顔で楽しんで遊んでいた様子から、崩すこともひとつの遊びなのかもしれないと考え直す。

### トンネルの山と、崩す山をつくろう!

- 事前の話し合いをし、「山が壊されて嫌だった」気持ちを聞き出す。保育者が、トンネルの山と、崩す山を作ろうと提案する。
- トンネルを作りたい子どもと、山を崩して遊びたい子どもに分かれ、それぞれの場で、山作りを始める。トンネルを作る子どもたちは「今度は崩されないぞ!」という、弾んだ思いで一息懸命に山作りをする。
- 山を崩して遊びたい子どもたちは、途中で、山作りをやめ、保育者が作る山が出来上がるのを待っている。今度は、自らシャベルを使って山を作る様子はあまり見られない。

★「トンネルを作りたい子ども」と、「山を崩して遊びたい子ども」、それぞれの思いを尊重したいと思い、「トンネルを作る山と、崩して遊べる山のふたつを作ろう」と子どもたちに話す。

\*遊び方からA児たちの思いが感じられた。山、トンネル、団子作りを求めるのではなく、もっと砂そのものの感触を楽しめるようにしよう。

### それぞれの山で…

- 手で一生懸命にトンネルを掘り、完成する。トンネルがつかがり、とても満足そうな笑顔を見せる。そこから水を流すと、とても興奮し歓声をあげる。「水持って来る」と張り切って水をくみに行く様子を、山を崩して遊んでいたA児たちも、興味津々な様子で見る。水を流す遊びに加わる。
- 崩す山を足で踏みつけたり、登って眺めを楽しんだりして遊ぶ。水をかけると溶けるような砂の様子を楽しんだり、足を埋め「足がないよ、どこどこ」、「ばぁ」と繰り返し楽しんだりする。

\*トンネル作りをした子どもたちだけでなく、A児、B児、C児も水を流す遊びを通して砂遊びの面白さを味わった。今後は、A児たちが作ることに、根気よく取り組めるように繰り返し遊びに誘っていくことが必要だ。

その後、A児たちは喜んで山や川などを作り、砂遊びを楽しんでいる。



## 考察

諸感覚を通して心を揺さぶり、身近な自然に親しみ、自然とかがわる様々なことに興味関心を広げている。そして、感動したり、試したり、確かめたりする行動力や態度が育つ過程を、「科学する心」の芽生えと捉えることができた。幼児が何に面白さを感じているのかを汲み取り、その思いに沿った環境を準備し、一緒に遊び、その子の思いに共感することが3歳児にとっては大事な援助である。

## ポイント

砂場遊びの山を崩す場面を、保育者は“しては困ること”という子どもの思いに沿った見方をしたり、一方では、子どもにとって“崩すことが楽しい遊び”と考えて見守ったりしています。砂の感触や崩す力加減、崩れ方や砂・水の流れ方に注目して“崩す”という行為を考察すると、子どもの体験していることや行為の意味を把握することにつながり、「科学する心」の芽生えを捉えることが具体的な援助を見出す手立てになっています。